

ひろしまの遺跡

第124号

町家の下から石垣を発見

— 亀居城関連遺跡（大竹市） —



石垣検出状況（北東から）

左が亀居城築城時の石垣，右はその後の埋め立てに伴う礫群



町家の庭池（南西から）

池の底に黒い土器を埋め込み，さらにその上に白い磁器碗を重ねている。（写真は埋土を除去した後，配置を復元）

亀居城関連遺跡は亀居城跡の麓に位置する江戸時代の町家跡です。遺跡内を西国街道が通り，さらに海に面していたことから，交通の要衝として栄えたようです。また，周防国境に近いことから，幕長戦争（1864～1866年）の舞台となりました。ちなみに，亀居城は慶長8（1603）年に築城が開始され，慶長13（1608）年に完成しましたが，その3年後の慶長16（1611）年に破却された短命な城です。

発掘調査では，建物に伴う石列の他に，幕長戦争時の火災痕跡や火災のごみを捨てた穴，土に埋めた甕，庭池などの町家の遺構を確認しました。さらに，町家の下から亀居城築城時と思われる石垣がみつかりました。

発掘調査速報

亀居城関連遺跡（大竹市小方）

調査期間 令和2年4月13日～令和3年1月（予定）

亀居城関連遺跡の調査は、岩国大竹道路建設事業に伴って実施しているものです。平成26年度（第1次調査）、平成27年度（第2次調査）に続き、今年度の調査が第3次調査となります。

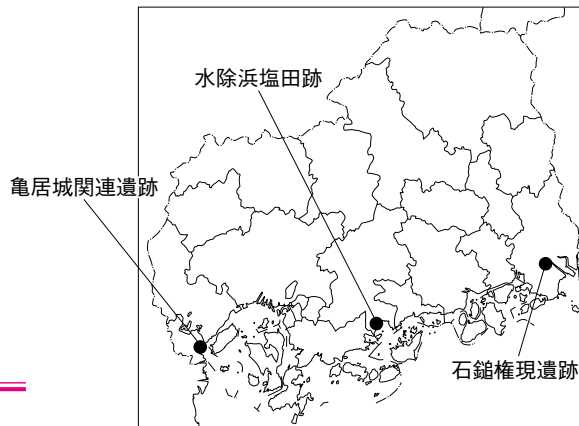
亀居城関連遺跡は亀居城跡の東側に広がる遺跡で、亀居城跡が立地する丘陵の急傾斜地（西側）と、海（東側）に挟まれた平坦地で、中央を西国街道が南北に貫いています。

第1次調査では西国街道の西側を、第2次調査では西国街道の主に東側を調査し、近世の町家跡を確認しました。調査の結果、いずれの調査区でも幕長戦争が原因と思われる火災跡がみつけられました。また、建物が建てられ始めたのは、西国街道の西側が17世紀後半から、東側が19世紀前半以降からと考えられます。文献史料によれば、西国街道は近世前半にルートを変更しており、亀居城関連遺跡を通るルートになったのは寛文年間（1661～1673年）頃とされています。ルート変更に伴い西国街道の西側に「片側町」と呼ばれる町が成立したようです。また、別の文献史料によれば、西国街道の東側の「増側町」と呼ばれる町は19世紀前半頃に海側を埋め立てて造られたとされており、調査結果と合致します。さらに町家跡（増側町）の下から石垣がみつけられました。この石垣には、亀居城の石垣と同様の刻印や矢穴があることなどから、亀居城築城時の石垣と考えられます。築城時の遺構と考えられるものには、櫓台と思われる建物跡や護岸状遺構（石垣）も確認されました。

今年度は、町家跡と西国街道跡を調査するとともに、以前の調査で確認された築城時の石垣や護岸状遺構の続きを明らかにします。すでに、護岸状遺構の続きについては、調査の結果、長さ50m以上あることが明らかになりました。さらに、以前の調査で確認された石垣とは別の場所で、築城時と思われる石垣がみつけられました。

現在は町家跡の調査を終了し、西国街道の調査に着手しています。なお、西国街道の下にも築城時の石垣がみつかる可能性が大きく、これからの調査が楽しみです。

（渡邊昭人）



町家跡の調査風景（南西から）



火災のごみを捨てた穴（北から）



石で蓋をした埋嚢（北東から）



護岸状遺構・石垣（南から）



みずよけはま

水除浜塩田跡 (東広島市安芸津町風早)

調査期間 令和2年4月13日～7月10日

水除浜塩田跡の発掘調査は、一般国道185号改築事業(安芸津バイパス)に伴うもので、調査に先立って実施された試掘調査で検出した塩田跡の状態の詳細を確認するものです。

対象となった調査地は周辺では最も低い水田です。降水時には西から北西にある石垣から排水が侵入してくるような場所で、水はけの悪い場所でした。現水田の標高は1.5m程で、これは満潮時の海水面よりも低い高さです。

調査は東西方向に幅3mのトレンチを20m間隔に設定して掘り下げを実施しました。その結果、南側に設定したトレンチで溝状遺構を確認しました。この溝状遺構は幅1～2mで南北方向に伸びており、調査区の中程で東側に屈曲して調査区の外に伸びていました。

確認できた部分から判断すると、今回の調査地点は水除浜塩田跡の北西端付近であろうと思われます。

(辻 満久)



空中写真(西から)



現状写真(北から)



溝状遺構屈曲部(西から)



遠景(東から)



貯蔵穴群の調査(西から)



石錠権現遺跡 (福山市駅家町)

調査期間 令和2年7月20日
～令和3年1月(予定)

石錠権現遺跡の発掘調査は、津之郷山守線(福山西環状線)道路改良事業に伴うものです。

遺跡の発掘調査はこれまでにA～D地点の4か所で行われ、弥生時代中期から後期の墳墓群や集落跡などが確認されています。

今回の調査地点は、D地点遺跡の北側丘陵上に立地しています。調査前は弥生時代の墳墓群が想定されていましたが、墳墓以外に貯蔵穴や建物跡も確認しています。特に貯蔵穴は調査区内の最高所の場所で重複した状態でみつまっていることから、集落の中での土地利用の在り方をうかがう事が出来ます。遺物は、石包丁や弥生時代中期後半から後期の土器が出土しています。

調査途中で全容は明らかではありませんが、これまでの調査成果とあわせた石錠権現遺跡の実態が明らかになると思われます。また、古墳時代前期の土師器が出土していることから新たにこの時代の遺構が発見される可能性が考えられます。

(山田繁樹)

再開！考古学講座Ⅷ(2019)の第5・6回

令和2年3月に開催予定としていた「ひろしま考古学講座Ⅷ(2019)」の第5・6回は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて無期延期としましたが、感染拡大が小康状態となった7月に再開しました。

再開にあたっては、感染予防の観点から、事前申込制とし、会場定員の半数以下の70名で募集しました。第5回はその定員をはるかに超える申し込みがあったことから、第6回開催予定日の午前中に第2弾を実施しました。

会場は参加者の接触を極力抑えるために机を交互に並べ、縦横の間隔を空けて、入場の導線を区分し、アルコール消毒液を配置するなどの対策をとり、聴講者の連絡先を記入いただくなど、いつもとは違った講座スタイルとなり、参加の皆様にはご不便をおかけしました。(伊藤 実)

ひろしま考古学講座Ⅷ(2019)―考古学おいでまいど(オンデマンド・On Demand企画)―

会場 広島県立総合体育館(グリーン・アリーナ) 大会議室 (広島市中区基町4番1号)

回	開催日時	演題と概要	講師
第5回	7月11日(土) 14:00~16:00	伝 吉川興経(おきつね) 首塚を掘る！	佐々木直彦 (北広島町教育委員会 生涯学習課)
第5回 第2弾	7月18日(土) 10:00~12:00	毛利元就の次男・元春の吉川家養子縁組に絡んで、毛利氏によって謀殺された吉川興経の首塚の発掘から明らかになった墓の変遷や興経謀殺の背景などについてお話ししました。	
第6回	7月18日(土) 14:00~16:00	遺跡出土品にみるリサイクル ―広島県内中世遺跡を中心に― 吉川元春館跡(北広島町)を中心に、県内の中世遺跡から明らかになった中世のいろいろな物のリサイクルの様子について、遺跡の出土品を中心にお話ししました。	岩本芳幸 (広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室)



受付付近の設営



第5回(聴講者61名)



第5回第2弾(聴講者36名)



第6回(聴講者57名)

南観音考古学教室Ⅳ

見る・聞く・やってみるの考古学

8月8日(土)、8月19日(水)に、南観音公民館と共催で南観音考古学教室を開催しました。今年には新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、参加者の人数を減らして一組ごとに机を分けるスクール形式で行いました。また、例年は全4回、それぞれ違う内容で開催していますが、参加者のほとんどが小学生とその保護者であることから、短い夏休みに合わせて2回だけの開催となりました。

マスクの着用や受付での検温などお願い事が多く、スタッフにとっても、マスクやフェイスシールドを着用しての開催は初めてで、開催しても参加希望者はいるのだろうかという不安もありましたが、多くの申込みがあり、とても嬉しく思いました。参加した子どもたちからも、「とても楽しかった。来年も楽しみにしている。」との声をいただきました。今後も、新しい生活様式を実践しながら、できる範囲で普及活動を行っていきたいと思います。

(順田千織)



考古学教室 (勾玉づくりのようす)

インターンシップ研修

8月17日（月）～21日（金）に、当室でインターンシップ研修を実施し、安田女子大学生4名が参加しました。研修では遺跡から出土した遺物の洗浄やネーミング・接合などの整理作業と、亀居城関連遺跡での発掘調査体験、博物館の企画展に貸出す資料の準備と、考古学教室（勾玉づくり）では子どもたちに製作指導を行いました。発掘現場は皆見るのも初めてでしたが、みつかった石垣の検出作業や、石垣に刻まれた刻印の拓本をとる作業などを行いました。実際の発掘調査と、そこから出土した遺物の整理作業、企画展への貸出準備を通して、普段博物館に展示されている資料の裏には多くの人が関わっていることを知ってくれたようです。（順田千織）



土器の接合



石垣の検出作業

2020博物館実習

8月24日（月）から28日（金）まで、比治山大学言語文化学科4年生2名が当室で博物館実習を行いました。実習では、出土品の取扱い方や梱包、保存処理や拓本や実測など短期間でしたがさまざまな作業にチャレンジし、発掘現場も体験しました。実習終了後の感想では、一番難しく印象に残ったのは意外にも、実測。いろいろ苦労したようでしたが、なかなかうまい図を描いていました。貴重な体験だったと記したのは発掘現場と保存処理。楽しかったのは拓本とその裏打ち作業でした。出土品を梱包する綿布団の工作にも汗を流しました。今年の夏は、例年になく暑かったですが、一週間、真面目にがんばりました。この体験が今後の博物館見学や社会生活に少しでもお役に立てば幸いです。（伊藤 実）



保存処理の実習のようす



発掘現場体験のようす



只今、整理作業中です。

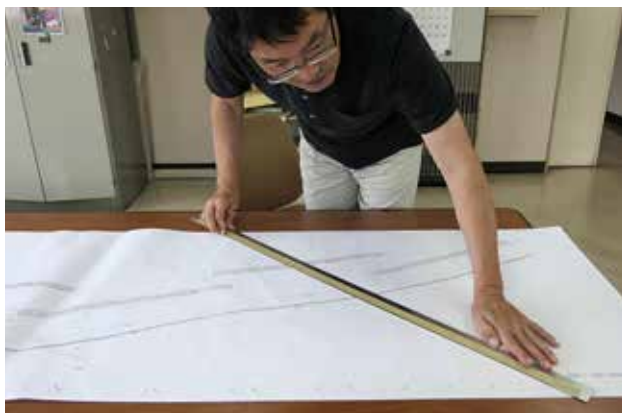
暑い夏も寒い冬も現場で過ごす調査員はもちろん、中で仕事をしている調査員も頑張っています。現在、箱山第1・2号古墳、水除浜塩田跡、鞆港湾施設跡の整理作業を行っています。箱山第1・2号古墳と水除浜塩田跡の発掘調査報告書は今年度刊行予定のため、担当者はカレンダーに書かれた締切を横目に執筆に追われています。

鞆港湾施設跡は平成29（2017）年～令和元（2019）年にかけて、ほぼ年間を通して調査しており、非常に多くの遺物が見つかっています。今後整理作業を進めていき、鞆の歴史を明らかにしていきたいと思います。



箱山第1・2号古墳

土器を接合し、破片がない所は石膏で埋めます



水除浜塩田跡

石垣の図面とにらめっこ



鞆港湾施設跡

様々な時代のもがあります

お知らせ

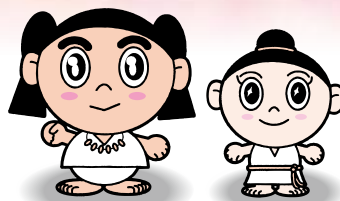
令和2年度 ひろしまの遺跡を語る

日時 令和3年1月30日(土)

会場 広島県民文化センター

時間 13時～16時

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせします。



ひろちゃん

やよいちゃん

ひろしま考古学講座IX

会場 広島県立総合体育センター(リーナ) 大会議室(本館地下1階)

時間 いずれも14時～16時(1時間半)

定員 70名(事前申し込み制・先着順) ※定員に達し次第締め切ります

※今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、中止もしくは延期になる可能性があります。

延期します

回	期 日	演 題	講 師
1	令和3年 1月23日(土)	尾道の中世瓦－時宗寺院・常称寺の発掘調査から－	西井 享 (尾道市企画財政部 文化振興課)
		尾道を代表する中世寺院・常称寺の発掘調査の成果のなかで瓦から考えられる当時の商人や海賊衆の活動についてお話しします。	
2	2月20日(土)	世羅台地の考古学－古代から中世にかけての世羅台地－	林 光輝 (世羅町教育委員会 社会教育課)
		遺跡の宝庫・世羅台地の古代から中世の遺跡について、考古学の成果などから紹介します。	
3	2月27日(土)	古代郡衙の謎に迫る－「日本霊異記」記載の三谿郡の考古学－	和田 崇志 (廿日市市教育委員会 生涯学習課)
		「日本霊異記」に登場する三谿寺(三次市)に関連する三谿郡衙(郡役所)の遺跡について考古学の成果などからお話しします。	
4	3月13日(土)	埋蔵文化財から見た呉の海軍関連遺構	荒平 悠 (呉市文化スポーツ部 文化振興課)
		呉市内に今も残る鎮守府や海軍工廠などの海軍関連施設について、埋蔵文化財の調査成果を中心にお話しします。	
5	3月20日(土)	庄原の前方後円墳－最近の調査から－	稲垣 寿彦 (庄原市教育委員会 生涯学習課)
		県内では大型の前方後円墳が集中する地域として知られる庄原市内の大型前方後円墳の様相や最近の調査成果を紹介します。	
6	3月27日(土)	鋸と日本刀－古代の鍛冶技術の革新－	伊藤 実 (当事業団 埋蔵文化財調査室)
		ともにその起源は大陸にありながら、古代末期に日本独特の道具や武器となる鋸と日本刀の鍛冶技術の革新について考えます。	

あ と が き

今年度は新型コロナウイルス感染症の広がりもあり、広報普及活動等が中止および延期になるなど、ご迷惑をおかけしました。「ひろしまの遺跡を語る」および「ひろしま考古学講座」についても、例年とは異なる形での開催となります。引き続きご協力をお願いいたします。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第124号

発行日 令和2年12月18日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4丁目8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

